

「平和と繁栄の回廊」構想について

★06年7月、小泉総理(当時)が中東を訪問した際、将来のイスラエル・パレスチナの共存共栄に向け、人々に信頼をもたらし、希望を与える我が国の中長期的取組として提唱。

構想の内容と狙い

- 西岸に農産業団地を建設するとともに、西岸からヨルダンを通り湾岸諸国等に向けた物流を促進することで、民間セクターの活性化に基づくパレスチナ経済自立化に寄与する。
- この構想を、日本のODAも活用しつつ、日本に加え、イスラエル、パレスチナ、ヨルダン間の地域協力を通じて推進する。

取組の状況

- 06年11月に、現地に調査団を派遣し、農産業団地や水環境整備に関する開発調査、農業分野の技術協力等の案件を形成。
- 07年3月、東京にて4者協議の閣僚級立ち上げ会合を開催、3月末より、農産業団地整備計画に向けた調査団を現地に派遣。
- 8月、第2回閣僚級会合をジェリコで開催(麻生外務大臣出席)。農産業団地をジェリコ県南部に建設すること等で合意。
- 08年7月2日、第3回閣僚級会合を東京で開催。4者の合意の下、これまでの進展と今後の展望に関する共通認識を初めて文書(プレス・ステートメント)の形で発出。

